



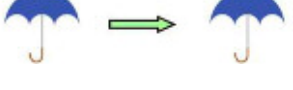





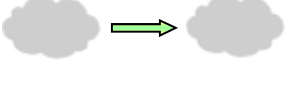





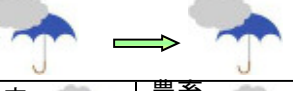




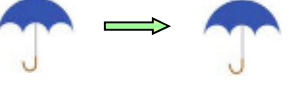








【産業動向概要】


















































産業全体 	<p>13年2月を中心とした県内経済は、輸出に回復の兆しがみえるものの、企業の生産活動は横ばい圏内で推移している。これを受けて雇用・所得環境も改善の動きが足踏みし、個人消費も弱含んで推移している。県内経済は横ばい圏の動きとなっている。</p>		
観光・旅館業 			<p>年末年始の伊豆地区の宿泊客数は、概ね前年並みか増加となり堅調。「河津桜まつり」の観光客数は、前年実績は上回ったものの2年連続で100万人割れ。「熱海梅まつり」は前年比減となった。</p>
紙類 			<p>県内メーカーが生産する再生紙物トイレトペーパーの価格は、横ばい基調。メーカーは原燃料価格上昇を背景に製品価格の立て直しに注力している。段ボール原紙も需要は軟調か横ばいだが、今後の工業製品輸出増に伴う消費の拡大が期待されている。</p>
	家庭紙 	板紙 	
水産業 			<p>主要漁港全体の水揚量は、前年比▲9.5%減。うち焼津港の水揚量は、主要魚種であるカツオ類は増加したもののマグロ類の減少が影響し、全体では前年比▲2.4%減。全体の平均魚価は、カツオ類の下落により前年比▲5.4%下落した。</p>
一般機械（主） 			<p>金属工作機械は、中国向けなどが不振で3ヵ月連続してマイナスとなった。金型は本年1月に前年割れとなったものの、昨年12月までは5ヵ月連続してプラスと堅調。しかし、現地調達拡大や中国メーカーの品質向上などで受注競争は厳しい。</p>
	金属工作機械 	金型 	
木材 			<p>県内の新設住宅着工は、住宅ローン減税の拡充や太陽光発電などの省エネ住宅への需要の高まりから2期ぶりにプラスとなった。製材品県内生産量は、6期連続で減少しているが原木市場では出材が増加、供給過剰から安値水準が続いている。</p>
缶詰 			<p>水産缶の生産量は、東日本大震災後の需要増加が一巡し、約2割減少で推移。ツナ缶は、原料魚種の価格高騰の影響によりメーカーは製品値上げを実施予定。農畜産缶、飲料缶類の生産量も減少している。</p>
	水産缶詰 	農畜産缶 	
	飲料缶類 		
楽器 			<p>主力のピアノは、引き続き生産台数、販売台数ともに前年実績を下回り、在庫に関しても増加傾向にある。電子楽器類も、北米・欧州の販売不振、中国の伸長鈍化により減産体制が続く。各電子楽器も在庫過多の傾向にある。</p>
	ピアノ 	電子楽器類 	

輸 送 用 機 器 			遠州地域の二輪車生産台数は、震災特需の消失や欧州向けの不振で、国内向け、輸出向けともに9ヵ月連続の前年割れ。一方、自動車部品生産金額（県内）もエコカー補助金の終了により5ヵ月連続のマイナス。また県内大手部品メーカーに新興国での生産体制強化の動きが出ている。
	二輪車 	自動車 部品 	

				
明　　る　　い	やや明るい	停　　滞	やや不振	不　　振

《産業別天気マークの推移》

 明るい
  やや明るい
  停滞
  やや不振
  不振

調査対象時期 (公表時期)	11/1 (11/3)	11/4 (11/7)	11/8 (11/10)	11/11 (12/1)	12/1 (12/4)	12/5 (12/7)	12/8 (12/10)	12/11 (13/1)	13/2 (13/4)
概況 	 								
観光・旅館業 	      								
紙類 	    								
水産 	    								
一般機械(主要) 	     								
木材 	 								
缶詰 	    								
楽器 	        								
輸送用機器 